

# 青森県森林病虫害等 防除センターだより

No 50

2018.3



青森県深浦町における松くい虫、ナラ枯れ被害 提供：(地独)青森県産業技術センター林業研究所

青森県森林病虫害等防除センター

# 松くい虫及びナラ枯れ被害について

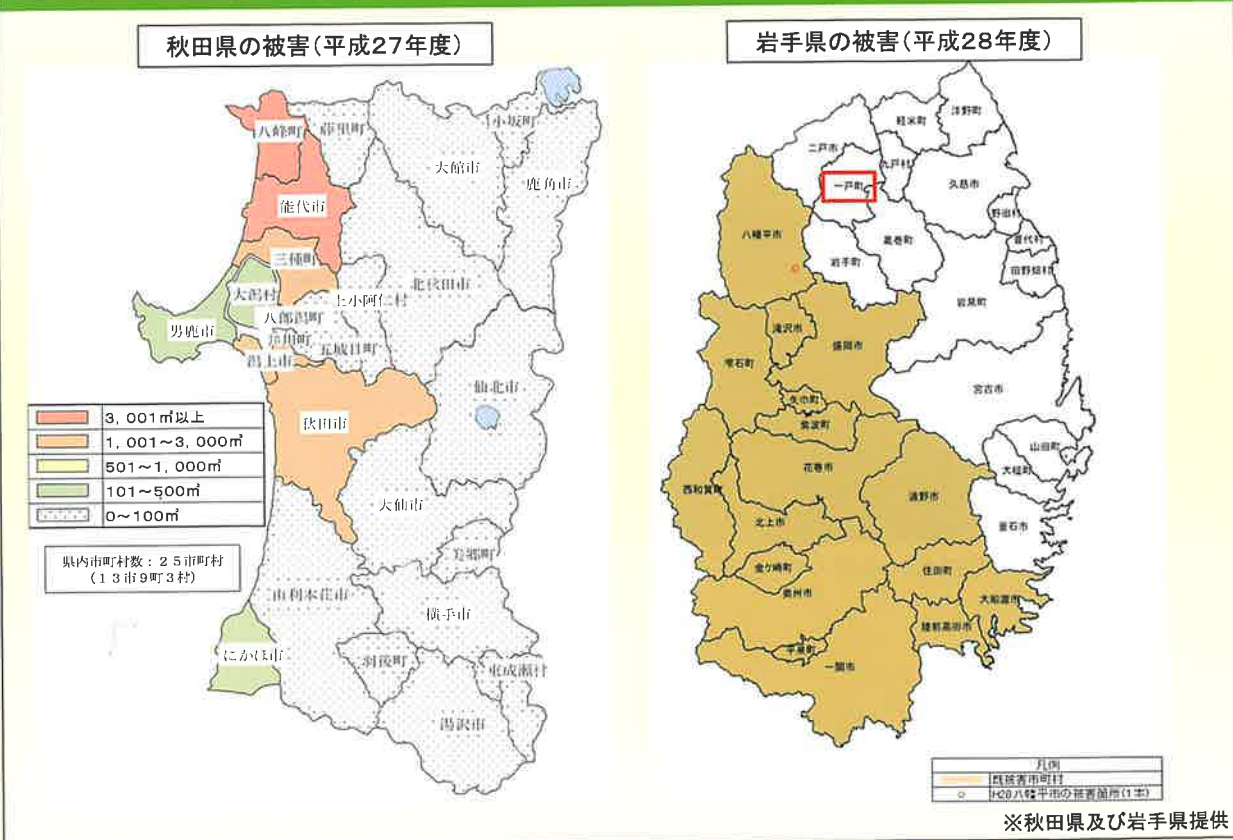
平成30年2月2日、青森市の国際ホテルで開催されました「平成29年度森林土木技術研修会」において、杉山林政課長が松くい虫及びナラ枯れ被害について講演を行いました。

松くい虫被害につきましては、H29シーズン（2017.7.1～2018.6.30）10月時点での被害発生本数15本から現時点まで新たな被害発生木は発見されていませんが、雪融け終了後から6月末までは、年越し枯れ被害が発生することが考えられることから、十分な巡視と監視、迅速な伐倒駆除が必要となります。

隣県の状況としまして、秋田県内では被害量の差はありますが全域で被害が発生しており、特に深浦町と隣接している八峰町での被害量が増加しています。

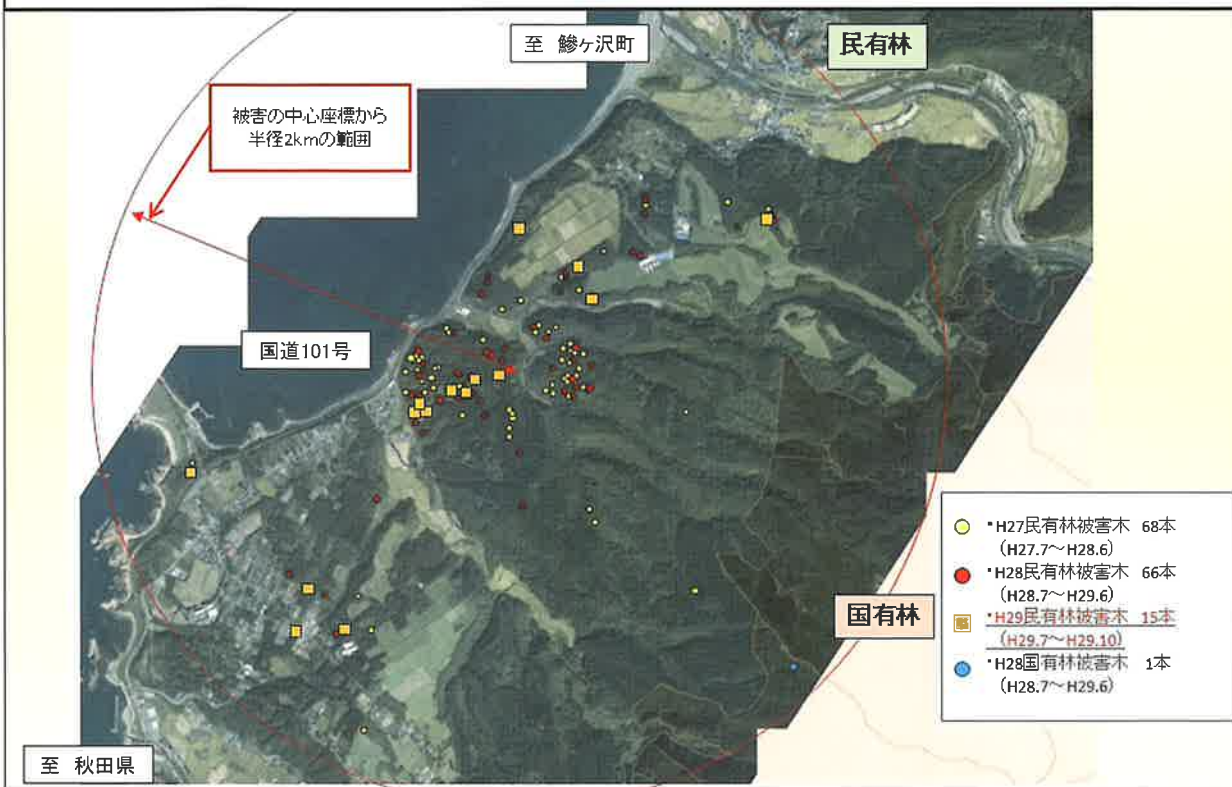
岩手県内では、H29年度被害地域が北上し、一戸町において新たな被害が発生しました。このことから、秋田県側だけではなく岩手県側の地域においても巡視等が重要になってくることと思われます。

## ①松くい虫被害（隣県の状況） →今年度は新規発生市町村有り…



# ①松くい虫被害 (青森県の状況)

OH29シーズン被害木 深浦町広戸・追良瀬地区 合計15本(民有林:15本、国有林:0本)

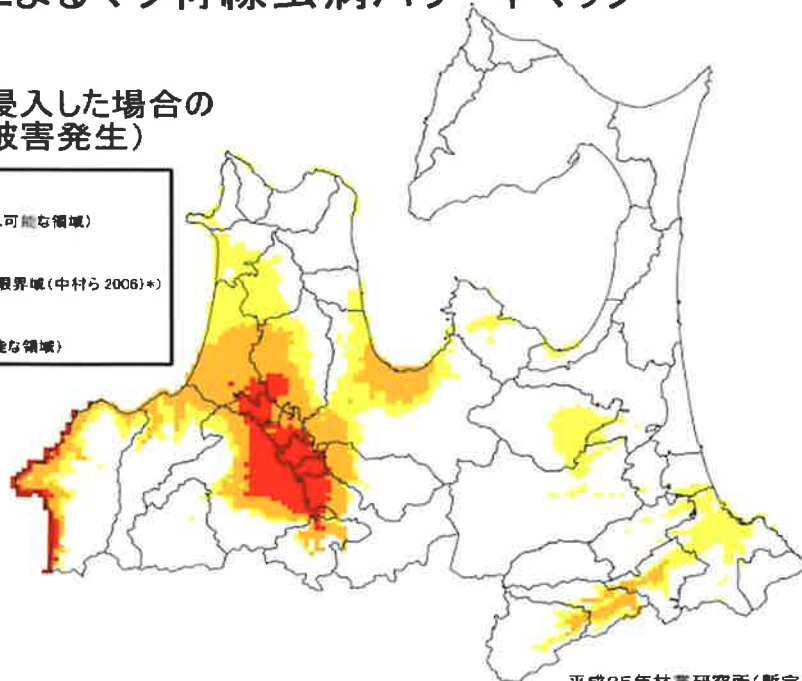


# ①松くい虫被害 (参考資料)

## 温量によるマツ材線虫病ハザードマップ

マツノマダラカミキリが侵入した場合の危険度(定着または被害発生)

- 危険度: 大  
(最近15年間の平均気温で1年1世代が生息可能な領域)
- 危険度: やや大  
(平年値(S56-H22)での材線虫病自然抑制限界域(中村ら2006)\*)
- 危険度: 中  
(猛暑年(H24)の気温で1年1世代が生息可能な領域)



平成25年林業研究所(暫定版)

※「マツ材線虫病(松くい虫被害)の監視・防除対策～対策の手引き～」より

ナラ枯れ被害につきましては、全国的には前年度より被害量は減少していますが、北東北の青森県・岩手県・秋田県の3県では被害量が増加傾向となっています。

このことから松くい虫被害と併せて、ナラ枯れ被害につきましても北東北は最先端被害地となってきています。

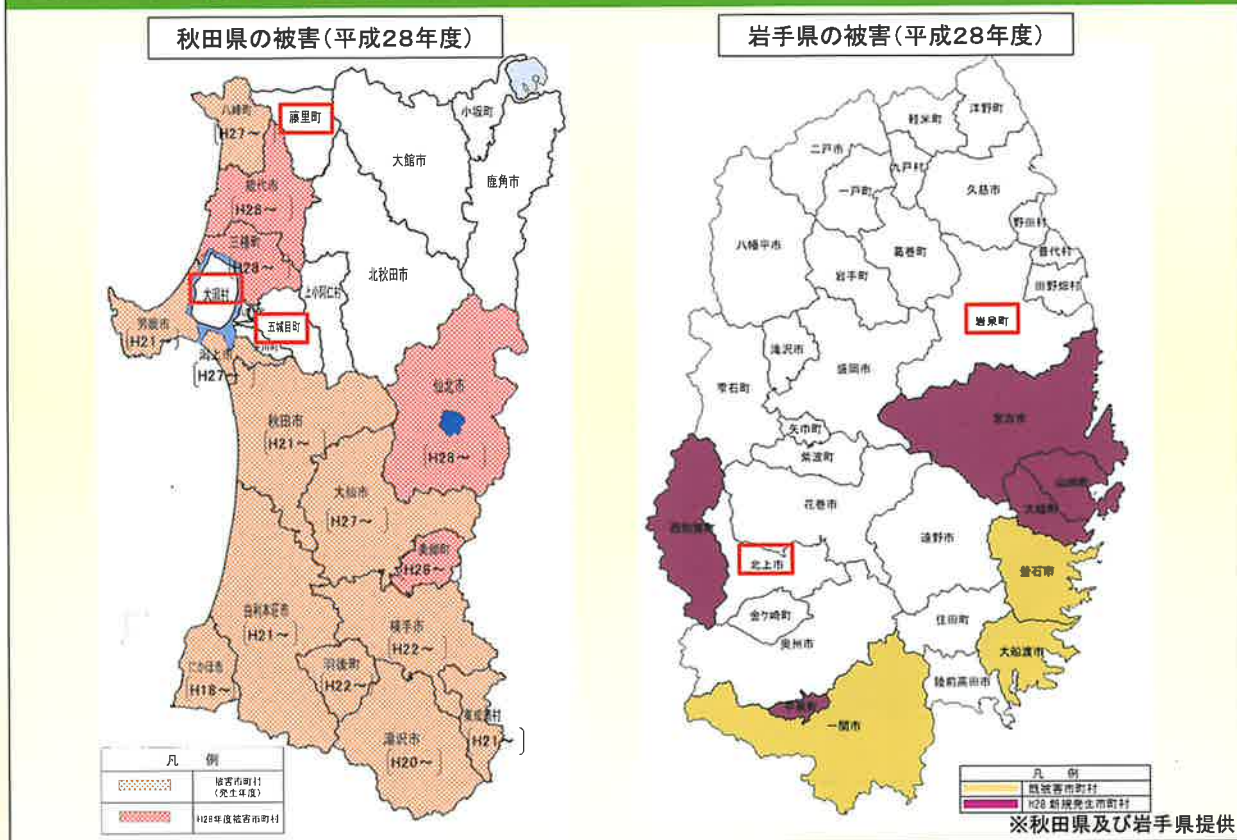
青森県においてH29シーズンの被害発生本数は、H28シーズンの被害木85本に対し、H29.10月時点での被害木は1,951本となり約23倍の被害木増加となっています。

隣県では新規市町村において被害が発生しました。

岩手県では北上市と岩泉町の2市町、秋田県では大潟村・五城目町・藤里町の3町村において被害が発生しました。

藤里町はH27年度より被害が発生している八峰町と並んで青森県と隣接しているため、松くい虫被害同様、ナラ枯れ被害につきましても、継続して巡視等を行うことが必要となります。

## ②ナラ枯れ被害（隣県の状況） →今年度は新規発生市町村有り…

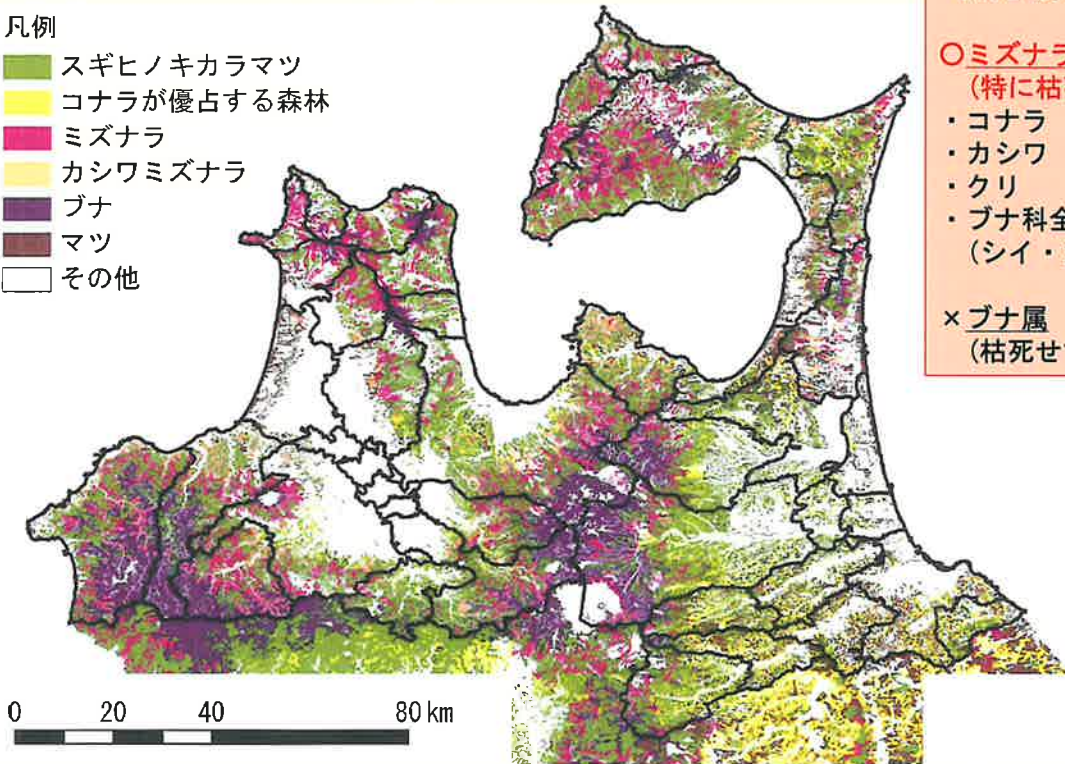


## ②ナラ枯れ被害 (青森県の状況)

### ○青森県のナラ林分布状況

凡例

- スギヒノキカラマツ
- コナラが優占する森林
- ミズナラ
- カシワミズナラ
- ブナ
- マツ
- その他



### 【被害樹種】

#### ○ミズナラ (特に枯死する)

- ・コナラ
- ・カシワ
- ・クリ
- ・ブナ科全般 (シイ・カシ等)

#### ×ブナ属 (枯死せず)

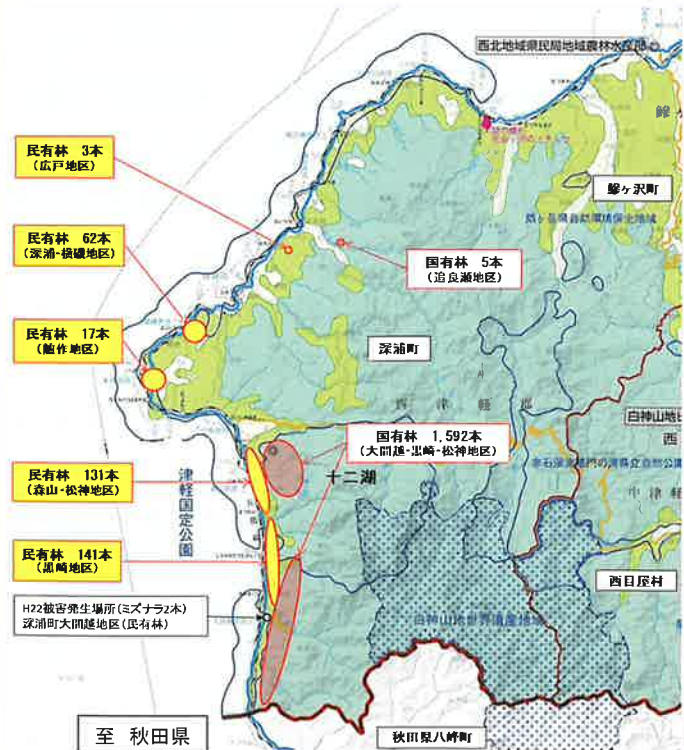
## ②ナラ枯れ被害 (青森県の状況)

### ○深浦町における被害発生 (県内2例目：平成28年10月以降)

→H29シーズン(H29.7.1~10月)

**被害合計: 1,951本**

- ・民有林: 354本
- ・国有林: 1,597本



	民有林	国有林	計
H28シーズン	23本	62本	85本
H29.10現在	354本	1,597本	1,951本

# 平成29年度青森県松くい虫等被害対策協議会

平成30年2月6日、青森市の青森県水産ビルにおいて「平成29年度青森県松くい虫等被害対策協議会」が開催されました。

最初に協議会の市町村構成員につきまして、秋田県における松くい虫被害及びナラ枯れ被害の発生状況をふまえ、秋田県と隣接する市町村として、西目屋村と新郷村を構成員として追加することについて協議が行われたところ、追加加入することで決定となりました。

松くい虫被害について、H29シーズンは被害本数を昨年度同時期と比較してみると、H28シーズンが42本に対してH29シーズンは15本と減少しているとともに、被害発生箇所が広戸・追良瀬地区内のみとなり、風合瀬地区では発生が見られませんでした。

このことより、松くい虫被害対策の成果が現れているものと考えられますが、被害は依然として発生していることから、青森県では早期発見・早期駆除を継続していくとのことでした。



ナラ枯れ被害について、カシノナガキクイムシ生息調査は従来より調査を行っていた深浦町大間越地区のほか、今年度より深浦町田野沢・広戸・横磯・松神地区で行ったところ、広戸地区で捕獲されました。

調査の結果を受け、被害地域拡大や被害量の増減の目安となることから、今後も調査は継続していくとのことでした。

なお、弘前市と平川市においても平成23年度より生息調査は継続していますが、今年度まで捕獲された実績はありません。

H29シーズン10月時点でのナラ枯れ被害本数は1,951本となっており、内1,597本が国有林において被害が発生しています。

国有林では、被害木1,597本の内979本はH30.2月時点で駆除処理済みとなっており、残り618本についてもH30.5月末までに処理する予定とのことでした。

# 平成29年度ツキノワグマによる被害状況について

青森県では、ツキノワグマによる人身被害が平成24年から平成28年までは0から3件で推移していましたが、平成29年は8月20日時点で平成23年以降6年ぶりに5件発生したことを受け、ツキノワグマ出没注意報を発表しました。

その後も10月に1件、11月に2件と平成29年は合計8件の人身被害となりました。

また、平成28年より目撃件数や食害被害件数につきましても増加傾向にあります。

今後はツキノワグマが春先に冬眠から目覚め、5月頃から活動を始めると共に、山菜採りやキノコ取り、登山も始まりますので、被害にあわないようご注意をお願いいたします。

## ツキノワグマの出没(目撃・食害・人身被害)件数の年次別・地域別状況

平成29年12月末現在

	H23			H24			H25			H26			H27			H28			H29		
	出没件数			出没件数			出没件数			出没件数			出没件数			出没件数			出没件数		
	目撃	食害	人身	目撃	食害	人身	目撃	食害	人身	目撃	食害	人身	目撃	食害	人身	目撃	食害	人身	目撃	食害	人身
東青	16			52			19			45			27			60			37		
	10	6		34	18		17	2		40	5		26	1		53	7		34	3	
中南	31			43			22			26			27			48			70		
	25	3	3	38	4	1	16	6		21	4	1	24	1	2	43	5		59	9	2
三八	14			24			52			51			16			66			64		
	13		1	20	3	1	48	3	1	47	3	1	16			58	8		54	7	3
西北	8			23			24			37			17			51			61		
	7		1	23			22	1	1	33	3	1	17			51			58	1	2
上北	8			59			31			38			42			94			61		
	6	2		39	20		25	6		35	3		29	13		84	10		51	9	1
下北	64			105			75			80			110			183			126		
	61	3		97	8		70	5		78	2		106	4		161	22		116	10	
合計	141			306			223			277			239			502			419		
	122	14	5	251	53	2	198	23	2	254	20	3	218	19	2	450	52		372	39	8

(提供:青森県自然保護課)

# 松保護士

「松保護士」は一般財団法人日本緑化センターの登録団体です。

## 日本のマツが消える？

各地の海岸で見られる松林は、歴史ある日本の風景であるとともに、田畑を飛砂と潮から守り、津波被害を軽減する重要な役割を担っています。

国内のマツが急激かつ大量に枯死する「マツ枯れ問題」は、100年ほど前に始まりました。さまざまな対策が実施されていますが、現在でも多くの松林が失われ続け、被害はほぼ全国に広がっています。

私たちの先祖が守り続けてきた松林をこれ以上失わないためには、効果的な「マツ枯れ対策」が必要です。そのために、高度な専門知識と的確な技術を持ち、被害の深刻さや防除対策の緊急性について普及啓発活動のできる人材＝松保護士が求められています。

### 松保護士の仕事

造園業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 庭・ゴルフ場などのマツの適切な管理</li> <li>● 他の技術者への指導</li> </ul>
調査・計画・設計業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 松林の現状把握</li> <li>● 保全・再生計画の作成</li> </ul>
林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 森林資源としてのマツの保育</li> </ul>
NPO、その他団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海岸林の日常的な維持管理活動など</li> </ul>
教育・研究機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マツの生理・生態、病虫害などの研究</li> </ul>
行政機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 松林の保護・防除計画</li> <li>● マツ枯れ問題の普及啓発活動</li> </ul>



# 松保護士

## マツと日本の文化を守る

松保護士とは、マツ枯れの原因である「マツ材線虫病」について幅広い知識を持ち、防除対策を考え、指導を行う専門家です。また、一般の方へマツ枯れへの理解を深めてもらう活動を行っています。

松保護士に求められるのは、マツ材線虫病の専門知識、防除技術、マツの生理・生態、マツの歴史・文化・役割などの幅広い知識です。

写真提供 幸山直樹



(提供：一般財団法人 日本緑化センター)

松保護士は、平成29年12月現在、全国で567名が登録しています。

青森県は、平成29年度新たに7名が取得したことから、県内の登録者数は22名となり、北海道・東北・北関東での登録者数は1位となっています。

● 発行 ●

## 青森県森林病虫害等防除センター

青森市松原一丁目16番25号 青森県森林組合連合会内

TEL 017-723-2657 FAX 017-723-1505

<http://www.aomori-pfau.or.jp/>